会長挨拶

綿貫民輔

全国道路利用者会議会長

皆さん、おはようございます。全国道路利用者会議会長の綿貫民輔でございます。

今日は、第60回の全国大会をこの札幌で開かせていただきましたところ、知事代理、市長代理、国会議員、来賓の皆さんかた多数のご出席いただき、ありがとうございます。また、日頃当会議をご支持いただいております皆さんに、全国各地からお集まりいただいておりますことを厚く御礼申し上げます。

この全国道路利用者会議は昭和24年に発足致しました。戦争に負けて荒廃した国土を再建するためには、なにより道路を作らなければならないと言う悲願の元に作られた道路利用者会議でございます。

この札幌におきましては、第6回大会の会場として、昭和31年に開催させていただいて以来、本日は5回目の大会でございます。それほど歴史のある道路利用者会議ではありますが、今も、道路整備に対する皆さん方の願いは当時と変わっておらず、特に地方においては、生活道路、あるいは産業道路、地域活性化のためには道路の整備はもっと必要だと言う声は高まっております。にもかかわらず、現在の日本の公共事業、あるいは道路に対する考え方と言うものは、全くあべこべの所にあるとのではないかと痛感いたしているところであります。

今年度の公共事業の予算にいたしましても、公共事業削減4箇年計画と言うのをたてられまして、公共事業を減らしていこうと言う中で、22年度においては4年分を一気に削減して、対前年比で18・3%の減となっております。公共事業のピーク時は平成10年でありましたが、現在の公共事業はその4割を切ると言う状況におかれておるわけであります。

惨憺たるこの状況、特に道路につきましては、民主党と自民党が色々と暫定税率をめぐりまして、論議をいたしましたけれども、結果的に暫定税率は残して特定財源制度は廃止、一般財源化すると言う、全く首尾一貫しない制度になったのであります。

私はこの経緯を誰よりもよく知っておりますけれども、民主党においても道路財源と言うものは必要だ、と主張しておりました。ただ、暫定税率と言うのは期限が切れるものですから、一旦ここで休んで考えよう、と言う考えでありました。

がしかし、逆に自民党が道路特定財源を一般財源化すると公言したのであります。これで一気に壊れてしまったのです。全く日本の政治は与党野党を問わず、認識がでたらめになってるんじゃないかと思っております。

私は24年前、北海道開発庁長官、国土庁長官、沖縄開発庁長官を兼務しているさて、道路整備を取り巻く環境は、誠に厳しいものがありますが、言うまでもなく道路は国民生活や経済活動を支える基本的社会資本としても、最も重要な施設であり、道路利用者会議では半世紀以上に渡り、道路整備の促進を訴え続けてきたところでございます。これまで相当な効果を上げてきたところでございますが、しかしながら、近年財政再建の名のもとに道路予算は大幅に削減されてきたところでございます。

この様な中、私ども道路利用者会議といたしまして、地域格差の解消・地域の活性化・国民生活の安心と安全を確保するため、来年度の道路予算の確保に向けてこの大会を成功させ、道路利用者の総意を結集し、その要望実現に今こそ、総力を上げて取り組まなければならない時と考えているところでございます。

また、本日も午後から明日にかけて道路事情の視察に多数の参加をいただくことになっておりますが、広大な面積を有する北海道におきましては、道路交通の果たす役割は大変大きなものがあり、さらにこれから厳しい冬を迎える本道には、高速道路あるいは、地域に密着した生活道路の整備の他、除雪等の維持管理にまだまだ多くの課題を抱えております。ぜひご視察に参加される皆様にはその実情をご理解いただきまして、今後とも北海道の道路整備等にご支援を賜りますようお願いを申し上げる次第でございます。

最後になりますが、私ども実行委員会といたしましては、本大会の成功と参加される皆様に、有益な視察研修をしていただけますように、関係者一同最善の努力を尽くしてまいりましたが、何かと不手際な点もあろうかと存じますが、何卒ご容赦下さいまして、この機会に北海道の雄大な自然も十分にご堪能されますとともに所期の目的が無事達成されますことを心から祈念いたしまして大会のご挨拶といたします。たいへん、今日は皆さん誠にありがとうございました。

開会挨拶・議長

北海道議会議員

小畑保則

北海道地区道路利用者会議会長

皆さん、おはようございます。ご紹介いただきました、北海道道路利用者会議の会長を務めております小畑でございます。

今回は当札幌での全国道路利用者会議第60回全国大会にあたり、実行委員長を務めております。大変皆様ありがとうございます。

今日はご承知の通り、綿貫会長をはじめ本部の役員の皆さん、そしてまた、全国、全道から多数の会員の参加をいただき、心から厚く御礼を申し上げるところでございます。

来賓挨拶

札幌市長代理

中田博幸

札幌市副市長

私、札幌市副市長の中田でございます。上田札幌市長に案内をいただいておりましたが、本日は出張で不在のため出席がかないません。市長に変わりまして一言ご挨拶いたします。

全国道路利用者会議第60回全国大会がこの様にこの札幌の地で盛大に開催されますことを心からお祝いを申し上げますとともに、全国各地からお越しになりました皆様を１９０万の札幌市民を代表いたしまして心から歓迎をいたします。また、皆様方には日頃より、土木・都市計画行政のご助言・ご指導を賜っておりますことに、この場をおかりいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

札幌市は明治2年の開拓使設置以来、北海道開拓の拠点といたしまして発展を続け、現在では北海道の人口の約3分の1を占める大都市へと成長してまいりました。また、札幌の道路もこの街の成長に合わせまして着実に整備が行われ、現在も市民の安全で安心な暮らしの確保のために様々な事業が行われているところでございます。

ここで、その代表的な事業を皆様にご紹介させていただきます。

まずは札幌駅前通り地下歩行空間整備事業でございます。札幌駅から大通駅に至ります地下に、新たに歩行空間を整備することで都心商業圏の回遊性を高めるとともに、雪の降る冬場を含めまして四季を通じて快適な歩行空間を確保する事業が来年の春に完成をいたします。

また都心部の交通の円滑化を図るために札幌の南北交通の主軸でございます、創成川通りのアンダーパスを連続化する事業を行いまして、これは昨年に供用を開始になっているところでございます。そしてアンダーパス上部につきましては親水・緑地空間を創出いたしまして、人と環境を重視した都心の再生を進める事業も進めているところでございまいりまして、こちらも来年の春には完成する予定になっております。

この他、市内全域におけるバリアフリー対策の推進、安心歩行エリアの整備等も進めているところでありまして、これらの事業を通じ、札幌をより住みよい街、魅力溢れる街になるように取り組んでいるところでございます。

さて、この度の会議は第60回の全国大会という節目の会議となっております。この間、多くの方にご参加いただき意見交換を重ねてきた経緯や要望書等の形で道路事業の必要性・重要性について訴えてきた歴史と実績のある会議でございます。昨今の道路事業を取り巻く環境は大変厳しい状況にございますが、このような時代にあるからこそ、この機会を通じ道路事業の大切さを確認しあいながら、地域住民の生活に直結した道路整備の必要性を強く訴えていくことが重要であると考えております。

さて、この時期の札幌は、今日もそうでございますが、さわやかで気持ちのよい季節でございます。食べ物も秋の味覚がたくさん揃っておりますので、皆様には短い滞在期間ではあろうかと思いますが、この札幌の街の食と様々な観光施設等を存分に堪能していただき、楽しい思い出を是非お持ち帰りいただきたいと思います。

最後になりますが、本大会が実り多い大会となりますよう、また、皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りいたしまして、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶

北海道知事代理

高井　修

北海道副知事

皆様おはようございます。高橋北海道知事に代わってご挨拶をさせていただきたいと思います。

全国道路利用者会議、節目の第60回全国大会がこのように全国各地からお集まりの中、開催されますことを心からお慶びを申し上げたいと思います。皆様にはまた、本日ご臨席の国会議員の先生方をはじめ、高速道路株式会社等、関係の皆様にはかねてから、高規格幹線道路をはじめ、北海道の道路整備の推進にお力添えをいただいていることにこの場をおかりして、厚く御礼を申し上げます。

道路は言うまでもなく、私達の生活に欠くことの出来ない重要な社会資本であります。とりわけ北海道は広域分散型の地域構造でありますことから、地域医療や暮らし、あるいは産業は自動車交通に大きく依存しており、高規格幹線道路網をはじめ、冬季間でも安全な移動を確保する地方交通ネットワークの整備を着実に進めていかなければいけません。

北海道といたしましては引き続き、本会議と連携して必要な予算の確保はもとより、道路整備の推進に全力を尽くしてまいりたいと思いますので、これまで同様、皆様の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりになりますが、全国道路利用者会議のご発展と本日お集まりの皆様方のご健勝を祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。